

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和5年6月定例会

議席番号5番
宮下孝幸議員

1. この町の漁業の今後について

私が観光立町を提言した、昨年の議会で、町長は、これからの観光は見せるだけではなく、食文化を活かした観光とすべきとの答弁があった。古来より当町は漁業が盛んで、町内外にその名を馳せ、町民の食卓を担ってきた。

しかし、近年わが町の漁業は、漁業者の相次ぐ廃業により、年々その数は激減し、大きな将来不安に直面する事態となっている。

(1) なぜこのような状況に至ったか・・・

凡そ10年前では、組合員数が50名、沖合船舶数8隻、磯見世帯数は24世帯であり、漁獲高は2億円を超えていた。

しかし、昨年には、組合員数が38名、沖合船舶数は5隻、磯見世帯数は17世帯となり、漁獲高はなんと1億1千万円まで落ち込んでいる。この危機的状況を、町長はどの様に捉えているのか。

(2) 救済の為の実態調査をしてきたか・・・

この現象が、産業を蝕む病に例えるなら、どの様な診断の下で、どの様な治療を施すべきか知る必要があるが、打開策模索の為、過去から現在に至るまで、漁業者との話し合いを繰り返ししてきたのか。

(3) 本当の原因とは何か・・・

現在、漁船のロープ一式を取替えるのに凡そ400万円、エンジンを積み替えると2000万円、新造船を造るとなると約1億円係ると聞く。事業不採算が大きな足かせとなっているが、特段の思案はあるか。

(4) その覚悟はあるか・・・

この町の大切な財産である漁業を再生し、どの様に守っていくかが問われている喫緊の課題、行政長としてその覚悟はあるか。

(5) 早急な具体策の提示を求める・・・

「覆水盆に返らず」一度絶やせば再生は不可能とも言えるが、待った

無しのこの状況の打開策を早急に策定し、議会に提示すべきと考える。